



金沢大学 (石川県)



日本社会・文化の研究、日本伝統文化体験、日本人学生との合同調査などの「日本探求」を通じた実践的日本語力が習得できます。

■大学紹介

① 大学の特色および概要 1) 特色と歴史

金沢大学は、1862年の加賀藩種痘所を源流とし、1949年に新制の総合大学として設立されました。現在 3学域、16学類(1)人間社会学域：人文学類、法学類、経済学類、学校教育学類、地域創造学類、国際学類、(2)理工学域：数物科学類、物質化学類、機械工学類、電子情報学類、環境デザイン学類、自然システム学類、(3)医薬保健学域：医学類、薬学類、創薬科学類、保健学類)及び、5研究科(教育学研究科、人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科、法務研究科)から構成されている総合大学として、幅広い分野での教育・研究活動の拠点となっています。金沢大学は、全国の大学に先駆けて、1956年から外国の大学との交流協定を締結して、学術文化の国際交流並びに、留学生交流を推進してきました。

2) 教員・学生数等 (2015年5月1日現在)
【教員数】981名、【学生数】10,508名(学域・学部生：7,911名、大学院生：2,329名、その他、非正規生：268名)

② 国際交流の実績 (2015年5月1日現在)
交流協定校数：206機関(40ヶ国、1地域)
大学間交流協定：143機関(35ヶ国、1地域)
部局間交流協定：63機関(20ヶ国、1地域)
留学生在籍数：533名

日本語・日本文化研修生合計受け入れ数：279名(平成27年度受入れの21期生を含みます)

③ 過去3年間の日本語・日本文化研修留学生の受入れ実績

	受入れ実数
2015年度	18名(大使館推薦4名、大学推薦13名、私費1名)
2014年度	17名(大使館推薦4名、大学推薦11名、私費2名)
2013年度	19名(大使館推薦5名、大学推薦12名、私費2名)

④ 地域の特徴

金沢市は古くからの城下町で、今まで大きな災害に遭わなかったため、昔の建物などが多く残っています。伝統工芸、古典芸能の盛んな、文化の香り高い日本的な雰囲気有し、四季の移ろいを実感できる街です。

■コースの概要

① コースの特色

金沢大学日本語・日本文化研修プログラムは参加学生の日本語能力の向上、及び日本社会・文化に対する理解を促進することを目的とした全学習を日本語で行う1年間のプログラムです。

② 受入定員

15名(大使館推薦：5名、大学推薦：10名)

③ 受講希望者の資格、条件等

本プログラムの受講を出願する者は、以下の要件を満たす者となります。

日本語能力：日常生活に必要な日本語能力(日本語能力試験N2合格程度)を有し、平易な文章の読み書きができる者
所属学部・学科：海外の大学において、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者
学年：海外の大学において3、4年次に在学中の者
学習姿勢：日本研究に対し意欲的であり、1年間積極的な姿勢で本コースの学習に専念する意志を有する者

④ 達成目標

修了時点で日本語能力検定N1レベルの日本語力、ならびに大学院進学に必要な研究能力の習得を目指します。

⑤ 研修期間

2016年10月1日～2017年8月31日

授業期間：

10月～2月(秋学期)、4月～7月(春学期)
修了研究(発表練習、レポート作成)期間：
8月1日～8月31日
修了式は8月末を予定

⑥ 研修科目の概要

本プログラムの構成は次のとおりです。なお、1科目は15回(1回90分)の講義から成ります。

必修授業科目	授業時間数		
	秋学期	春学期	合計
日本語	90	90	180
技能別日本語	30	30	60
漢字	30	30	60
日本文化演習Ⅰ	30	30	60
日本文化演習Ⅱ	30	30	60
日本文化体験実習	30	選択	30
調査実習	30	選択	30
修了研究演習	30	30	60
修了研究レポート及び研究発表	-	60	60
合計	300	300	600

<必修科目>

1) 日本文化科目(各学期開講)

本プログラム専用の日本文化科目として日本文演習Ⅰ、Ⅱ及び日本文化体験実習の3科目を開講しています。これらの授業科目は日本社会・文化について総合的に学習しながら、直接日本文化に触れることにより、日本に対する自らの見方を形成する機会を与えることを目的としたものです。

(a) 日本文化演習Ⅰ

日本文化演習Ⅰでは、社会、生活、政治、経済、教育、ジェンダー、若者の文化等の観点から日本社会・文化について概観します。現代日本社会の有り方を考察しつつ、それを手掛かりに自国の社会や「自己」そのものの客観的な捉え方を試みます。学内外の専門家が日本文化の諸局面について講義を行う形で授業を構成しています。

(b) 日本文化演習Ⅱ

この科目は前述の日本文化演習Ⅰと連結する形で構成しています。日本文化演習Ⅰで扱った各テーマに関して、演習形式による発表・ディスカッションを行います。演習Ⅰがインプットであることに対し、演習Ⅱはアウトプットに相当することから、演習Ⅰで習得した知見をもとに、「自己」への理解、および日本社会の構造、諸問題についての理解を深めることを目的とします。

(c) 日本文化体験実習(秋学期必修科目、春学期選択科目)

金沢の豊かな伝統文化を直接体験することや実地見学を通して現代日本社会について学ぶことがこの授業の目的です。各分野の第一線で活躍している芸術家・伝統工芸職人に学びながら、その人生観や生き方に触れる貴重な機会を設けています。地域の協力の下、九谷焼体験、輪島塗・蒔絵体験、加賀友禅体験、紙漉き体験、金箔工芸体験、加賀料理体験、和菓子作り体験、茶道体験、坐禅体験、華道体験、琴弾き体験、能楽体験、俳句作り、古い町並み散策、学校訪問、工場見学等の体験を予定しています。

2) 調査実習(秋学期必修科目、春学期選択科目)

日本人学生と合同で少グループを形成し、比較文化的な観点から日本社会・文化についての合同調査・研究を行います。研究方法論を段階的に学びながら、その実践によって研究を進めていきます。実習や訓練を通して、研究方法論や日本語によるプレゼンテーションスキルの習得を目指します。また、日本人学生とのインタビュー調査や討論会なども行います。このような日本人学生との共同学習を通して、より日常的なレベルにおける日本社会に対する理解を深め、それと同時に自国文化の再確認を試みます。この授業は金沢大学の日本人学生との国際交流も主眼においた学生参加型授業です。

3) 修了研究演習(各学期開講)

この授業科目は各自の修了研究に対する個別指導を行うために開講しています。調査実習科目で学んだ研究方法論を応用して、個人の修了研究を段階的に進めながら、定期的に報告を行います。

4) 修了研究レポート及び研究発表(春学期開講)

参加学生は日本に関わるテーマについて、1年間に渡って研究を行い、プログラム終了時に15分間の口頭研究発表を行い、同テーマについてA4用紙15枚以上のレポートを作成し、提出しなければなりません。大学院進学へのステップとなるようなオリジナリティーのある卒業論文相当の研究が要求されます。なお、中間発表会を行うために4月初旬に合宿を行います。

5) 日本語科目(各学期5コマ必修)

日本語科目は、金沢大学留学生センター総合日本語プログラムで開講されている授業を履修し、それぞれのレベルに応じて、他の留学生と共に受講します。日本語・日本文化研修生はD～Fレベルのクラスを受講することが最も一般的です。メインコースに加えて、漢字及び技能別日本語の授業を履修します。技能別日本語は読解、聴解、作文及びアカデミック・ライティング、口頭発表、日本人学生との討論等の科目が用意されており、その中で各学生のレベルに合ったものを1学期1つ、ないし2つ履修します。

<選択科目>

1) 正規授業科目の履修

それぞれの専攻に関連する関心のあるテーマについて、担当教員の許可を得て、日本人学生向けに開講している一般授業科目の履修が可能です。各学期の初めに一般授業科目履修ガイダンスを行います。

<見学・地域交流等> (課外活動)

1) 日本文化体験及び実地見学旅行等の行事

日本文化体験実習の一環として実施する16種類の文化体験及び実地研修の他、プログラムの行事として和服体験、陶芸体験、キリコ祭り参加・能登巡り等を行います。また、他の留学生との合同企画としての研修旅行等にも参加できます。

2) 里親交流プログラム

本プログラムの一環として、1年間に渡って各学生が地域の里親家族と交流を行う「里親交流プログラム」を実施しています。このプログラムでは全体の行事として対面式、文化祭参加、日本料理教室、日帰りバス旅行、各国料理会などを行います。里親との交流を通じて、日本の家庭生活を直接体験しながら、日本人のものの見方・考え方を知ることができます。



加賀友禅体験



スキー研修



授業の様子



能登の祭り

⑦ 行事

- 10月 開講式
里親対面式
能登研修旅行
- 12月 里親とのバス旅行
- 2月 修了研究構想発表会
- 4月 中間発表合宿
- 8月 修了研究発表会
能登の祭り参加
修了式

⑧ 指導体制

指導教員：

- 山本 洋 (国際機構留学生センター・准教授,
専門：歴史学, 文学)
- 峯 正志 (国際機構留学生センター・教授,
専門：言語学)

本プログラムの参加学生は留学生センターに所属し、プログラム担当教員が指導教員として学生の学業・生活指導に当たります。研究指導、発表及びレポート作成指導を定期的に個別・全体の両レベルにおいて実施します。なお、様々な専攻の学生の受入を可能にするために、研究指導を行う際に、人間社会学域等のその専門に応じた教員の協力を得ることもあります。日本語担当教員及び日本文化科目の講義担当の学内教員の合計数は約30名にも上ります。

⑨ コースの修了要件

必修授業科目の履修・合格、並びにプログラム終了時の修了研究の口頭発表及びレポート提出が修了要件です。本研究プログラム修了者に修了証書を授与します。また、履修した授業科目、成績評価及び単位数が記載された成績証明書を交付します。

■ 宿 舎

本プログラムの参加学生は以下のいずれかの宿舎に入居できます。

- 1) 金沢大学国際交流会館
(キャンパス内にある金沢大学の留学生及び外国人研究者用の居住施設。単身者に限ります)
寄宿料, 光熱水費：月額約3万円
- 2) 金沢大学学生留学生宿舎「先魁」
(キャンパス内にある金沢大学の学生及び留学生及の居住施設。単身者に限ります)
寄宿料, 光熱水費：月額約3万円

■ 修了生へのフォローアップ

本プログラムの修了生は、所属大学に戻り学位を取得後、例年半数程度が本学もしくは日本国内の他大学の大学院へ進学している。その他、母国で通訳や日系企業に就職するなど、ほとんどの修了生が日本とかかわりのある仕事に就いている。

◇ 問い合わせ先

金沢大学国際機構支援室留学生係
〒920-1192 石川県金沢市角間町

TEL : +81-76-264-5293

FAX : +81-76-234-4043

E-mail: st-exch@adm.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学ホームページ

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

金沢大学留学生センターホームページ

<http://www-isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/>

日研ホームページ

<http://www-isc.ge.kanazawa-u.ac.jp/jp/program/nikken/index.html>

指導教員連絡先 E-mail:

yama@staff.kanazawa-u.ac.jp

mmine@staff.kanazawa-u.ac.jp



兼六園